

自然ゆたかな拠点が育む絆と成長 ここから羽ばたく、未来のリーダーたち

光市は、山口県の東南部に位置し、温暖な瀬戸内式気候に恵まれた自然豊かな都市です。年間日照時間も長く、全国の市町村でも17位に入る明るいまちとしても知られています。「地方で子育てしたい賞」を受賞し、移住先としても高い人気を誇っています。



昭和53年4月に発団した光第2団は、2024年に創立46周年を迎え、スカウト41名、指導者・団委員23名の計64名で活動しています。

発団には市川熙育成会長と現人間国宝保持者である金工作家、山本晃氏が大きく貢献しました。市川育成会長は、永く山口県連盟の重職を務め、現在は県連盟副連盟長。現在は4期目の光市長を務めています。また、山本氏は光第2団の牛鬼をモチーフにしたネッカチーフデザインを手掛けています。



豊かな自然と学びを支える 充実の施設で、のびのびと活動

活動の拠点は光市の野外活動センター「周防の森ロッジ」。ここには炊飯棟や野営場が完備され、自然に恵まれた環境の中で、ハイキングやキャンプを思い切り楽しむことができます。ここで多くのスカウトが学び、「一人前」として巣立っていきました。この恵まれた自然や施設を活かした活動が行われており、今回の「プラごみバスターズ大作戦」でも、活動前に指導者がプロジェクターを使用して、各隊に応じた課題や目標をわかりやすく説明しています。目的を理解し、「自分たちにできること」を考えながら活動することで、遊びを通じた充実した学びの場が提供されています。

また、昭和54年に保護者として入団し、長年にわたり活動を支えてきたのが山本隆幸団委員長です。その豊富な経験が、団員や保護者にとって頼もしい存在となっており、皆が安心して活動に参加できる環境をつくり上げています。

地域イベントに積極的に参加 一般公開プログラムで認知度UP

光第2団では、毎年1回以上一般公開プログラムを開催しています。今年は「ワクワク自然体験遊び」と題して野外料理を行いました。ペットボトルを使ったパン作りや、氷を使ったアイスクリーム作りは、多くの参加者で盛り上がったようです。

また、市教育委員会と連携し、各小学校や保育園、幼稚園への募集チラシの配布など、地域との強い結びつきも魅力です。光市が「おっぱい都市」宣言をしてから32回を迎えた名物行事、「おっぱいまつり」にブースを展開するなど積極的に地域の行事にも参加。地域の人々にスカウト活動を知ってもらい、生き生きとしたスカウトの姿が伝わることで認知度を高めています。

楽しみながら まちのクリーンアップに貢献

取材当日は「プラごみバスターズ大作戦」の日。光市を代表する大きな川「島田川」へ向かいます。この日は9月にもかかわらず厳しい暑さが続き、予定より少し早めに切り上げることになりましたが、あっという間にゴミ袋はすぐに満杯に。汗を流しながらも、スカウトたちはまるで遠足を楽しむように、出発から道路脇、川まで次々ときれいにしていきました。川辺には、どこから流れ着いたのか不思議に思うような重い鉄や複雑な形のゴム製品、持ち上げられないほど大きなゴミもあり、スカウトたちは驚きながらも積極的に活動していました。

光第2団は、「小さな親切」運動の一環である「日本列島クリーン大作戦」にも例年参加し、環境への意識を高めています。収集後にはゴミの分別の勉強も兼ねた仕分け作業を行います。市指定のゴミ袋は光市からの協力を受けながら、地域貢献を大切にしたい清掃活動を続けています。

保護者との連携・ 情報発信が安心につながる

積極的な情報発信や、保護者との連携も光第2団の強みです。一般公開プログラムによるスカウト運動の周知やチラシ配布、ブログの更新も頻繁で、活発な活動が伝わります。指導者の指導力向上など地道な取り組みの成果だといえます。

各隊指導者と保護者はLINEで密に連絡を取り合い、保護者代表委員が毎月団委員会に出席することで、活動についての情報をスムーズに連絡・共有しています。連携がしっかりしているからこそ、スカウトも保護者も安心して活動に参加できるのでしょう。

働く女性が増える中、子どもたちが安心して活動でき、ときには一緒に参加して楽しむことができるこの環境が、高い満足度を生み出し口コミにつながっているのでしょう。

